

# 戦争災害研究室だより

第13号 2008年1月10日

東京大空襲・戦災資料センター

136-0073 江東区北砂 1-5-4 財団法人政治経済研究所内 tel03-5857-5631 fax03-5683-3326

HP <http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/> E-mail [sensai-shiryo-center@abelia.ocn.ne.jp](mailto:sensai-shiryo-center@abelia.ocn.ne.jp)

## 第13回研究会報告

日時 2007年12月16日(日) 13:00-16:00

場所 財団法人政治経済研究所 共同研究室

報告題 2007年における平和のための博物館の戦争関係特別展の動向  
ー博物館の戦争展示調査中間報告

報告者 山辺昌彦

出席者 植野真澄 大岡聡 土岐島雄 二瓶治代 山辺昌彦 山本唯人 吉田裕

## 報告要旨

### はじめに

報告では、2007年には市民団体による新たな平和博物館が開館したこと、埼玉県平和資料館で常設展の年表が変更されたこと、2007年における平和のための博物館の15年戦争関係特別展の特徴、地域の歴史博物館における継続的な15年戦争関係特別展の開催の歴史についてなどを話した。以下、報告の骨子を紹介するとともに、付属資料として「特別展の紹介文」を載せることによって、報告の要旨に代えたい。

なお、この報告は、平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(B))課題番号19320109「東京大空襲体験の記録化と戦争展示」による博物館戦争展示調査の一環として、5月2日に憲政記念館を、5月4日にピースあいちを、5月7日に国立公文書館を、5月19日に同志社大学Neesima Room・立命館大学国際平和ミュージアムを、5月20日に奈良県立図書情報館を、5月23日に東村山ふるさと歴史館を、5月31日に山梨平和ミュージアムを、6月21日に姫路市平和資料館を、6月22日に立命館大学国際平和ミュージアムを、7月31日～8月2日にかけて、浅井歴史民俗資料館・銅鐸博物館・栗東歴史民俗博物館・近江八幡市立資料館・近江日野商人館・立命館大学国際平和ミュージアム・亀岡市文化資料館・大阪国際平和センター・堺市立平和と人権資料館・大阪人権博物館を、8月3日に奈良県立図書情報館の「戦争体験文庫 in 代官山」・昭和のくらし博物館・昭和館・しょうけい館を、8月5日に前橋文学館を、8月11日に八王子市郷土資料館・町田市立自由民権資料館を、8月15日に蕨市立歴史民俗資料館・埼玉県平和資料館・豊島区立郷土資料館を、8月20日に女たちの戦争と平和資料館を、8月23日～24日に斎宮歴史博物館・四日市市立博物館・桜ヶ丘ミュージアム・豊川海軍工廠資料展示室・柳津歴史民俗資料室・岐阜市平和資料室・桑名市博物館を、9月

5日に福生市郷土資料室を、10月11日にふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館・高麗博物館を、10月14日に立命館大学国際平和ミュージアムを、10月16日に姫路市平和資料館を、10月21日に埼玉県平和資料館を、11月18日に埼玉県平和資料館を、12月2日にピースあいちを、12月7日に立命館大学国際平和ミュージアムを、それぞれ訪れ見学をしたが、その中間的な成果報告を兼ねている。また、この調査の開始前の、2月2日と26日にすみだ郷土文化資料館を、3月13日に大阪国際平和センター・立命館大学国際平和ミュージアムを、3月14日に日本民家集落博物館内のカルチュアはつとりを、3月21日に昭和館を、3月27日に成田羊羹資料館を、4月12日に熊谷守一美術館をそれぞれ見学している。

## 1. 新しい平和博物館の開館

### ○ピースあいち

趣旨 戦争という20世紀の負の遺産を、歴史の教訓として次代に伝え、平和のために役立てる

第1展示 愛知県下の空襲について

「空爆」と「空爆の思想」を問い、その非人間性を訴える

空襲体験者の証言を展示

第2展示 戦争の全体像 15年戦争

テーマ展示 戦争の経過 戦争の本質は「生命の破壊」

南京事件、慰安婦、重慶空襲も

第3展示 戦時下の暮らし

時代を生きてきた人は何を一番に思い出し、何が忘れられなくて今も心の中に残っているか  
桐生悠々らの抵抗も

ほとんどの来館者は展示を支持

体験者によるガイド

ガイド養成講座なし

### ○山梨平和ミュージアム

目的と活動

1. 甲府空襲、甲府連隊など15年戦争に関わる資料を収集・保存・展示して、戦争の事実と実相を次世代に伝えていく。
3. 私の展示コーナーなど市民参加型の運営を重視
4. 平和憲法の意義、戦争と平和に関する情報を発信・交流するセンター

#### 1. 企画展 甲府空襲の実相

民間人の被害を中心に

空爆に参加するローランド・ボールと空襲下奇蹟的に助かった諸星広夫、

2人の交流

諸星広夫のビデオによる証言を展示

『伝えたいあの戦争―戦後60年にあたって』収録の志治承道と津田百合子

の体験記  
安永圭子の詩  
絵は非体験者の小島義一が、写真をもとに甲府空襲を描いている  
空襲の写真 甲府市編『甲府空襲の記録』掲載のものを使用  
空襲の死者の居住地と名前  
爆弾 戦時下の品物  
戦略爆撃の系譜も ゲルニカ 重慶 ドレスデン 原爆  
重慶での日本人の反戦も 山梨出身の長谷川テル  
私の展示コーナーでは主に書かれた体験記を展示  
『甲府空襲の実相－元日航機長が語る空爆の真相』を刊行 事実上の展示図録

## 2. 企画展 甲府連隊の軌跡

甲府連隊の軌跡・歴史を通して、15年戦争の被害・加害の実相を明らかに  
兵士の外国での戦闘による被害を中心に  
加害 毒ガス 人体実験 治安戦

体験者によるガイド  
ガイド養成講座なし  
山梨県戦争遺跡ネットワークが山梨平和ミュージアムの母体  
『伝えたいあの戦争－戦後60年にあたって』に国外での戦場体験、  
国内の戦争体験も

## 2. 埼玉県平和資料館の常設展の年表の変更

常設展の年表で、1937年12月13日の南京事件について写真などに張り紙を貼っていた

文章を訂正し、写真も詳しい説明をつけて復活した  
文章は

「日本軍南京占領(「南京事件」「南京大虐殺」)」  
写真の新たな説明は

「南京占領から2週間ほど後の揚子江付近 『私の従軍中国戦線(村瀬守保写真集)』より この  
写真は、当時、輸送部隊の兵士であった撮影者(後に埼玉県居住・故人)が、占領の2週間ほど後  
に南京に入り、下関埠頭で見た場景を撮影したものです。」

1991年の従軍慰安婦問題の文章は

「戦時中の「慰安婦」問題など日本の戦争責任論議多発」に変更

批判を受けていたが、重大な後退にはならなかった

## 3. 2007年特別展の特徴

埼玉・堺などでの 戦争の悲惨さを伝える特別展・企画展の開催

今までの調査を集大成した特別展  
福生・上福岡

変化 現物資料の重視  
浅井 日野

新しい開催が多い  
地域に根ざした  
東村山・城陽・亀岡・斎宮・桑名  
空襲の記録との関係  
前橋・熊谷守一

戦争遺跡との関係  
日本民家集落・亀岡  
沖縄・福生・上福岡・東大和

旧蔵資料の丁寧な紹介  
町田・豊島・大阪

大学史関係施設での取り組みの広がり  
同志社  
明治・京都大学の刊行物

## 4. 平和のための博物館における主な15年戦争関係特別展

### ○平和博物館での特別展

沖縄県平和祈念資料館

第8回特別企画展「沖縄戦と戦争遺跡～戦世の真実を伝えるために」

長崎原爆資料館

「原爆資料館所蔵絵画展」

「原爆資料館収蔵資料展」

広島平和記念資料館

2006年度第2回企画展「林重男写真展」

2007年度第1回企画展「海外からの支援 被爆者への援助と込められた再建への願い」

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

企画展「しまってはいけない記憶ー助けを求める声を後にして」

福山市人権平和資料館

企画展「少年たちの記憶ー中国から引揚げてきた漫画家12人の体験画集」

企画展「福山空襲と戦時下の暮らし」

姫路市平和資料館

収蔵品展「戦時下を語る資料たち」

春季企画展「子どもたちが記録した『日常』－戦時下の小学生日記から」

秋季企画展「『学び』を奪った戦争～学徒勤労動員の日々～」

大阪国際平和センター

特別展「戦争体験画展－兵士が見た太平洋戦争 少年が見た大阪大空襲」

特別展「戦時下の大阪 ないないづくしの戦争展」

堺市立平和と人権資料館

企画展「6000人の命を救ったビザ－外交官杉原千畝の決断」

企画展「紙しばいに見る日本－戦中・戦後の暮らしと世相」

企画展「描かれた戦争体験」

特別展「絵画が語る平和への願い～大田健一展」

吹田市平和祈念資料室

「子どもたちの『戦争』～絵日記でつづる学童疎開」

立命館大学国際平和ミュージアム

特別展「ニューカレドニアの日系人」展

特別展「飯塚国雄絵画展」

ミニ企画展「ニューギニア戦線 玉砕の島写真展」

ミニ企画展「知らなかった京都の戦争 京都への原爆投下計画－それはなぜ避けられたか」

ミニ企画展「伊藤家からのメツセージ－戦争の20世紀を見つめた遺品」

ミニ企画展「げんばくって何？－ヒロシマ・ナガサキ・キョウト」

戦争と平和の資料館 ピースあいち

特別展 第1回寄贈資料展「軍隊生活」

特別展 第2回寄贈資料展「国民生活・学校生活」

静岡平和資料センター

企画展「子どもたちに伝えたい静岡の戦争Ⅱ－三菱工場への爆撃」

岐阜市平和資料室

企画展「学校もたいへんだった－戦火の中学生日記」

山梨平和ミュージアム

企画展「甲府空襲の実相」

企画展「甲府連隊の軌跡」

神奈川県立地球市民かながわプラザ

「漫画家・作家たちの絵手紙－私の八月十五日展」

川崎市平和館

企画展「戦争体験を話す・聞く－終戦直後の混乱期」

企画展「川崎大空襲パネル展」

東京大空襲・戦災資料センター

特別展「東京大空襲の生き証人 鈴木賢士写真展」

わだつみのこえ記念館

企画展示「平和への戦没学生遺稿展」

女たちの戦争と平和資料館

第4回特別展「東ティモール・戦争を生きぬいた女たちー日本軍とインドネシア支配の下で」展

第5回特別展「中学生のための『慰安婦』」展

埼玉県平和資料館

テーマ展Ⅳ「雑誌・新聞附録にみる時代の世相」

テーマ展Ⅱ「戦時救護ー日赤看護婦たちの軌跡」

テーマ展Ⅲ「戦時埼玉の食卓」

ギャラリー展1「疎開児童の絵」

## ○新たな歴史博物館での特別展

薩摩川内市川内歴史資料館

ミニ企画展「終戦記念展」

日本民家集落博物館内のカルチュアはっとり

企画展示「禁野火薬庫の調査」

同志社大学N e e s i m a R o o m

第31回企画展「同志社と戦争 1930ー1945」展

城陽市歴史民俗資料館

2007年度第1回拡大特別展「十五年戦争と城陽」

亀岡市文化資料館

第43回企画展「戦争平和展ー戦争遺跡と亀岡」

斎宮歴史博物館

企画展「地域に残る戦争展」

桑名市博物館

学習支援展示「戦時下の暮らし」

東村山ふるさと歴史館

企画展「あの日々の記憶ー東村山の空襲と学童疎開」

熊谷守一美術館

「4月13日の東京大空襲 詩と絵展」

成田羊羹資料館

第7回企画展「戦地慰問と軍事郵便物語」

前橋文学館

企画展示「空襲・戦災の記録」

## ○歴史博物館での継続した戦争関係特別展

福岡市博物館

展覧会（部門別展示）「戦争とわたしたちの暮らし16」

奈良県立図書情報館

「戦争体験文庫 i n 代官山」

戦争体験文庫企画展示「軍隊と地域 1 ー戦地・占領地での軍隊 ビラと軍票」

戦争体験文庫企画展示「軍隊と地域 2 村と軍隊ー村役場／在郷軍人会」

戦争体験文庫企画展示「軍隊と地域 3 村と軍隊 2－勤労・増産・金属回収」

戦争体験文庫企画展示「軍隊と地域 4 奈良の戦争遺跡－奈良聯隊 奈良海軍航空隊ほか」

戦争体験文庫企画展示「戦争と手紙 1 出征」

向日市文化資料館

'07 夏の文化資料館ラウンジ展示「くらしのなかの戦争」

大山崎町歴史資料館

小企画展「第9回平和のいしずえ展」

栗東歴史民俗博物館

テーマ展「アジア・太平洋戦争下、ある日の栗東－平和のいしずえ 2007」

浅井歴史民俗資料館

企画展「第5回終戦記念展 村にきた赤紙－今明かされる兵事係の記録」

近江日野商人館

特別企画「第20回太平洋戦争展」

近江八幡市立資料館

資料館テーマ展「平和への祈り」(2)

四日市市立博物館

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」

桜ヶ丘ミュージアム(地域文化広場内)

「豊川海軍工廠展」

「戦時資料展－兵役と人々」

柳津歴史民俗資料室

展覧会「戦中の暮らしと人びと」

豊島区立郷土資料館

収蔵資料展「戦争を考える夏 2007」

すみだ郷土文化資料館

企画展「東京空襲を描く人々－空襲体験者の記憶と表現」

昭和のくらし博物館

特別展「小泉家に残る戦争」展

町田市立自由民権資料館

2007年度第1回企画展「戦線で、兵士は見た－中国東北部の風景と人びと」

八王子市郷土資料館

特別展「空襲に備えた日々－戦時下の八王子」

福生市郷土資料室

特別展示「近代戦争のあゆみと戦時下の福生－平和のための戦争資料展」

東大和市立郷土資料館

ロビー展「多摩の戦跡写真パネル展」

蕨市立歴史民俗資料館

第18回平和祈念展「15年戦争の記憶 戦中・戦後のくらし」

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館

第22回特別展「東京第1陸軍造兵廠」

## 5. 継続した特別展の歴史

### ○ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館 造兵廠

- 07年 東京第1陸軍造兵廠 集大成 学徒勤労働員聞き取り 図録
- 05年 戦後六〇年記念企画展「造兵廠と戦争遺跡」 展示資料目録
- 04年 企画展「造兵廠と戦争資料展示会」

1983年から聞き取り調査、実物資料の収集

調査報告書を刊行

- 1998年 市史調査報告書15集 旧陸軍造兵廠福岡工場
- 1992年 資料館調査報告1 旧陸軍の施設
- ミニ企画展などを開催

### ○蕨市立歴史民俗資料館 時代—15年戦争の記憶 から 平和祈念展へ

開館した1990年から毎年戦争関係の企画展

戦争を二度と繰り返さない、平和の尊さを考える立場から

「戦争」を風化させることなく次の世代へ伝える

展示を新憲法で終わる

開始し、継続した理由

埼玉県下第二の規模の空襲があったこと

小規模館として特色を出したい

継続する中で、テーマ性を立てた企画展に

ほとんどの年 リーフレットを刊行

その中で最も関心の高かった代用品について論文を書いた

佐藤直哉「戦中政策における代用品普及事業について」 専門民俗学

『蕨市立歴史民俗資料館紀要』1号所収 2004年3月刊

空襲は金子吉衛『蕨の空襲と戦時下の記録』があるので、その成果の上にたった調査・展示

07年 第18回平和祈念展 15年戦争の記憶 戦中・戦後の暮らし

出征 総動員 空襲警報 代用品 日本国憲法

空襲被害パネル

トピック展示 旅も戦争一色 駅弁の包み紙 バス・電車の乗車券

06年 第17回平和祈念展 戦中から戦後へ

「一五年戦争の時代」「作家が語る 八・一五」「新聞報道に見る終戦前後」

「引揚の苦難」「戦後の人々の暮らし」

05年 第16回平和祈念展 子どもたちの戦争—15年戦争の記憶

戦中・戦後の子どもたちの学校生活や日常生活

04年 第15回企画展「15年戦争の記憶—節米と代用品の時代」

03年 第14回企画展「15年戦争の記憶—銃後の女性たち」

### ○豊島区立郷土資料館

1985年以来、学童疎開を中心に戦争関係の特別展・企画展の開催、史料集刊行、講座開催などの取組を継続

- 07年 収蔵資料展 戦争を考える夏 2007
- 05年 2005年度第1回企画展「東京空襲六〇年ー空襲の記憶と記録ー」
- 03年 2003年度第1回収蔵資料展「戦争と豊島区2ー戦地・兵舎から家族への手紙」
- 02年 2002年度第3回収蔵資料展「豊島の空襲ー戦時下の区民生活」
- 95年 特別展「戦争と豊島区」
- 89年 特別展「第3回 戦中・戦後の区民生活」
- 88年 特別展「子どもたちの出征ー豊島の学童疎開・2」
- 87年 特別展「さやうなら帝都 勝つ日までー豊島の学童疎開」
- 86年 企画展「第2回 戦中・戦後の区民生活」
- 85年 企画展「戦中・戦後の区民生活」

### ○すみだ郷土文化資料館

- 07年 企画展「東京空襲を描く人々ー空襲体験者の記憶と表現」 2～4月  
完成作品」とともに、「デッサン」「下絵」を展示  
「デッサン」「下絵」には記憶から呼び起こされた空襲体験の印象が直截的に表現  
体験者の「記憶」が第三者への伝達を目的とした「表現」になるまでの、体験者の「心の軌跡」  
を推察する
- 05年 企画展「東京空襲60年ー3月10日の記憶」 2～4月
- 04年 企画展「描かれた東京大空襲ー絵画にみる戦争の記憶」 1～3月

### ○福生市郷土資料室 平和のための戦争資料展

毎年企画展「平和のための戦争資料展」

残っている資料を通じて戦争を見つめ直し平和の大切さを認識する  
近代戦争と福生の歴史を見つめなおし、もう一度現在の尊い平和について再認識

- 1997年から大規模に。
- 2000年からテーマを立てて
- 2007年度 郷土資料室収集の福生に関わる近代戦争の資料を一堂に展示  
近代戦争の歴史を振り返る
- 2006年度 近代戦争の始まりである日清戦争から、太平洋戦争までの歴史を、  
福生地域の郷土資料を通じて紹介
- 2005年度 一五年戦争関係ではなく  
「戦争錦絵に見る日露戦争百年ー日露戦争と福生ー」図録刊行
- 2004年度 日露戦争中心
- 2003年度 陸軍航空審査部の地図や当時の人びとのくらし

2002年度 戦時下の子ども

2001年度 旧日本陸軍の多摩飛行場（現・米軍横田基地）ゆかりの資料中心に

2000年度「号外に見る戦争」

子どもの参観も多い。

来館者年間 約20000人

企画展 約6000人

戦争関係寄贈資料は目録を整備している 非公開

まとめた資料は目録を年報に掲載している

植村東治氏寄託 新聞号外、年報20号 1999年度

接收美術刀剣赤羽刀、年報20号 1999年度

大手ヒロ氏寄贈多摩飛行場関係地図、年報22号、2001年度 2003年刊

多摩飛行場を地域の重点的課題として取り組んでいる

基地内ツアーもやったことがある

基地内の旧陸軍建物調査を、郷土資料室調査員の峰岸秀雄氏に委託して、

2001年度・2002年度におこなった。

その結果をまとめ、

「米軍横田基地内にのこる旧日本陸軍建物について」

（『福生市郷土資料室年報23』2002年度）2004年刊として公表している。

資料紹介「米軍横田基地内発見の旧日本陸軍関連資料について」 陶器の壺と機関砲

（『福生市郷土資料室年報24』2003年度）2005年刊

多摩飛行場・陸軍航空審査部

当時の建物・レール跡・水道施設の調査・写真撮影

工事による出土品（固定式機関銃・爆弾など）・解体した建物の部品などを収集

働いていた人の聞き取り

関係者の会・つばさ会の会報収集も

基地の地図収集

## ○八王子市郷土資料館

継続開催の理由

八王子空襲が大きかったこと

子どもたちが学習に来るので、展示会を開催する方がよいと判断

趣旨は、戦争への反省と平和の大切さを後世に語り伝えること

身近な「八王子空襲」という出来事を通して、改めて平和の意味を考える

2007年度 特別展「空襲に備えた日々ー戦時下の八王子ー」

2006年度 特別展「市民の記録した戦後の八王子」2006年8月1日～9月3日

2005年度 特別展「戦時下の市民生活」 2005年8月2日～9月4日

|                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 2004年度 コーナー展「八王子空襲」  | 2004年8月3日～31日    |
| 2002年度 コーナー展「八王子空襲」  | 2002年7月30日～9月1日  |
| 2001年度 コーナー展「八王子空襲」  | 2001年7月28日～8月15日 |
| 1995年度 「戦争と人びとの暮らし」展 |                  |

#### ○町田市立自由民権資料館

2007年度第1回企画展「戦線で、兵士は見たー中国東北部の風景と人びと」  
2007年7月28日～9月9日

第4回戦争展「生・死・祈・祀ー戦争とゆらぐ生命」

2002年7月27日～9月8日

展示資料目録 講演録 『自由民権』16 2003年3月刊

第3回戦争展「軍隊へのまなざしー明治の徴兵と周辺文化」

2000年7月20日～9月3日

展示資料目録 講演録 『自由民権』14 2001年3月刊

第2回戦争展「戦地からの便り 戦地への想い」

1998年8月29日～9月30日

展示資料目録 講演録 『自由民権』12 1999年3月刊

第1回戦争展「武装する農民・兵賦・徴兵」

1997年

戦争と民衆第3回「戦時色の雑誌展」

1989年8月15日～ 2週間

出陳目録 『自由民権』4 1990年3月刊

戦争と民衆第2回「ぼくら少国民」

1988年8月2日～17日

出陳目録 『自由民権』3 1989年3月刊

戦争と民衆第1回「兵士の見た中国戦線の記録展」

1987年8月15日～ 2週間

資料目録 『自由民権』2 1988年3月刊

#### ○桜ヶ丘ミュージアム 豊川海軍工廠展 戦時資料シリーズ

豊川海軍工廠展 を例年開催 2005年が集大成

2007年 戦時資料シリーズV 兵役と人々展

2006年 戦時資料シリーズIV 戦時下の雑誌

2004年 戦時資料シリーズIII 戦時下のポスター展

2003年 戦時資料シリーズII 代用品にみる戦時下の暮らし展

2002年 戦時資料シリーズI 絵にみる戦時資料展

#### ○栗東歴史民俗博物館 テーマ展 平和のいしずえ

栗東の人びとが経験した戦争や戦時下の生活をたどり、戦争と平和について考える

展示において日本の戦争が侵略戦争であったことを示している

満蒙開拓も 軍票も

兵士の厭戦的な心情も展示 弾よけ サムハラ

従軍スケッチ

博物館ができる以前から平和の取組をしてきていた

博物館では開館直後の 1991 年から毎年夏にテーマ展「平和のいしずえ」を開催

アジア太平洋戦争を重点に、日清・日露戦争を含め、日本近代の戦争全体を取り上げる

博物館が日露戦争戦勝記念の図書館、里内文庫の蔵書や戦争記念品を引き継ぐ

日清・日露戦争からの資料を所蔵

学童疎開の付き添い教員であった和田豊雄氏から関係資料を一括寄贈

開館当初から 2000 年まで学芸員の井上優氏と資料調査員の伊東ひろ美氏が担当

井上氏が県に移ったあと 2001 年は学芸員の田母神克幸氏が担当

2002 年からは学芸員の大西稔子氏が担当

年ごとの重点テーマをより明確にした展示会に切り替わる

関連する戦争遺跡の見学会も会期中に取り組む

テーマ展 「アジア・太平洋戦争下、ある日の栗東ー平和のいしずえ 2007」

国民の総力戦 アジア・太平洋戦争下、女性や子どもたちの日常のくらしまでもが、戦争を

遂行させる歯車のひとつに、

そうした銃後のくらしを、市民から博物館へ提供された資料を通して紹介

テーマ展 平和のいしずえ 2006

戦時下に作られたポスター類 除隊記念盃 この年のみ図録なし

テーマ展 平和のいしずえ 2005

青年団・婦人会・近隣組織・在郷軍人会など地域の銃後団体

テーマ展 平和のいしずえ 2004

日露戦争 学童疎開

テーマ展 平和のいしずえ 2003

青年学校

テーマ展 平和のいしずえ 2002

学童疎開

## ○浅井歴史民俗資料館 終戦記念展

開館は1995年3月

終戦記念展を始めたきっかけ

コレクターの出雲一郎さんの薦め

開催して 地元の身近な問題を取り上げて感動を与えた よかった 続ける

地域の地元の人々の戦争体験を伝える

親子で見て興味を持ってるテーマ

批判はない

慎重にやっている

年間入館者 4 0 0 0 人中 1 0 0 0 人が終戦記念展中に来る

2 0 0 4 年度 3 7 3 6 人

2 0 0 5 年度 3 6 5 6 人

2 0 0 6 年度 5 0 5 5 人

職員 2 人 1 人専任・学芸員資格持つ 1 人非常勤

## 終戦記念展

0 7 年企画展「第 5 回終戦記念展 村にきた赤紙—今明かされる兵事係の記録」

旧大郷村村役場の兵事係だった西邑仁平さんが、焼却命令に抗して密かに保管してきた兵事資料

どう赤紙がとどけられたか

出戦履歴 令状受領証綴り 召集令状 海軍充員令告知書 配布用地図

村葬

弔辞 戦没者名簿 法名

兵事係の仕事・書類

予科練募集 トランク 兵事書類綴 在郷軍人名簿・身上書 在隊間成績調書

壮丁名簿 徴兵名簿 在郷軍人除籍簿 外国居留者上申書 徴集延期名簿

勲章関係書類

村の軍事動員

動員手簿・日誌 動員に関する書類 自動車徴発徴発 馬名簿

防諜に関する書類(特に、関特演関係)

地域の状況

名誉の家 軍事講演会ちらし 奉公会 在郷軍人会 国防・愛国婦人会

尚武会

忠魂碑建設

凍死軍人義捐

記憶 西邑仁平さん本人の文章

自殺者が忠魂碑に祀られないこと 上海事変で捕虜になり、帰郷後自殺したこと  
展示 戦争賛美のためでない、戦争がばかげた行為を知る証 正しい歴史認識  
兵事資料 戦争の犠牲、戦争に翻弄されたことを知る資料

0 6 年企画展「第 4 回終戦記念展—応召先の敦賀連隊」

浅井地域の人が入隊した敦賀連隊

敦賀空襲

戦場の郵便配達員赤たすき、出征直前に家族にあてた手紙、

安明寺の学童集団疎開関係資料、戦時中の嫁入道具、荷車、墨塗り教科書、

紙芝居、生活用品

0 5 年企画展「第 3 回終戦記念展—語り継ぐ戦争の記憶」

従軍看護婦の遺書・遺髪・召集状、今荘区防空演習記録や防空関係資料、

町内兵士の遺書、中国へ行った軍人の関係資料

#### 04年企画展「第2回終戦記念展－父帰る戦争の記憶」

子どもたち

くらし

兵士・軍隊

抑留

遺跡 実弾射撃場 防空監視所

戦争体験－33人

#### 03年企画展「第1回終戦記念展－子どもたちに伝えたい戦争の記憶」

出征 5人の体験

銃後 町内の聞き取り

女性と戦争

図録 03、04は刊行済み、05、06は編集中

#### 昨年までの展示

1年かけて、聞き取りともに、資料収集

資料提供者の戦争体験を聞き取り、本人に確認の上、

キャプションに盛り込んだり、まとめて要約し、文章で展示している

聞き取ったまま 表現上問題あるものもある

聞いても公表できない話もある

特に戦場での加害行為など

図録を刊行し、そこに証言を入れている。

聞き取りの文章化したものを刊行することは必要だがまだ計画はない

体験画、映像・音声での収録・提供はしていない

#### ○近江日野商人館 日野と太平洋戦争

2007年度特別企画 第20回太平洋戦争展

展示の趣旨 地元の戦争体験を伝える

戦争が子ども達まで大きな犠牲を強いたことを伝えたい

特定の個人の戦争体験は取り上げていないで地域の子どもを中心とする戦争体験を  
取上げている

今年は、絵や人形などの再現でなく原資料を展示

疎開学童のお礼の作文集「なつかしき東桜谷村の皆々様へ」

疎開受入校の学校日誌 東桜谷国民学校の校中日誌にみる疎開指導の記録

「町代日記」の1940年の記録に見る 戦時体制の強化 回覧板

学校日誌から警戒警報発令を拾う

館長の満田良順さん個人刊行の年表に収録

#### 昨年まで 日野と太平洋戦争

前館長が地元の学校の子どもたちの戦争体験を絵にしていたものを、展示し、資料集に  
体験画、人形などで伝える努力をする

戦争体験を聞く会を開催

戦没者名簿を昨年は展示

今年の趣旨

大きな犠牲を払った太平洋戦争によって、日野の人がどんな生活をしいられ、  
どんな苦労を経験したかを伝えて、非人道的な過ちを繰り返さないようにし、  
平和への思いを確かなものにする

昨年まで、展示資料の多くは館長が使用したものや製作したものであった

## ○向日市文化資料館 夏の文化資料館ラウンジ展示「くらしのなかの戦争」

夏の文化資料館ラウンジ展示「くらしのなかの戦争」

身近な地域の資料から戦争と平和について考える

市民から寄贈された資料を展示し、戦時下の人びとくらしをたどるもの

'07 夏の文化資料館ラウンジ展示「くらしのなかの戦争」

出征兵士と子どもたち

「06くらしのなかの戦争」

戦地に赴く時に携行する奉公袋や軍隊手帳、真珠湾攻撃を伝える新聞のほか、入隊から除隊ま  
での軍隊生活を表した漫画や自らの思いをつづった日誌など当時の生活を偲ぶもの

「戦後60年『くらしのなかの戦争』展」

集大成的な展示で、勤労奉仕・配給・隣組・防空演習・供出など関する村の公文書をはじめ、  
主な収蔵品をまとめて展示している。

04年 「くらしのなかの戦争」

軍装品 教科書 日露戦争の軍事郵便

## ○大山崎町歴史資料館 小企画展「平和のいしずえ」

平和の尊さを語り合う契機するために町民からよせられた戦争時の資料を展示するもの

07年 9回

99年 1回

## ○福岡市博物館 「戦争とわたしたちのくらし」展

常設展示室の部門別展示室で、6月19日の福岡空襲の日の前後に館蔵の戦時資料を展示するシリーズ

16回 2007年 昭和戦前期から戦時中までの衣生活

15回 2006年 防空に関するポスターや書類、福岡大空襲で焼け残った瓦や時計

14回 2005年 戦時期の食

1回 1992年

## おわりに

2007年の博物館の戦争展示調査は、基本的には、2007年に開かれた特別展の調査にとどまり、戦争体験の記録・継承と博物館の展示などの事業との関連についての詳細調査は、ごく一部について着手したにすぎない。この詳細調査と戦争博物館の戦争展示についての調査は来年度以降の課題

として残されている。

2007年の平和博物館や歴史博物館などの戦争展示は、戦争の悲惨さを伝え、平和の尊さを考えるという趣旨で開かれており、戦後的な色彩が依然として強いことが特徴としてあげられる。

## 資料「平和のための博物館」での戦争関係取組の紹介文

### ○前橋文学館:群馬

企画展示「空襲・戦災の記録」が2007年7月21日～8月5日の会期で開催されました。前橋空襲の資料・写真や日本各地の空襲・戦災の出版物などが展示されました。

### ○埼玉県平和資料館：東松山市

テーマ展Ⅳ「雑誌・新聞附録にみる時代の世相」が企画展示室で2007年2月17日～4月8日の会期により開催されました。

テーマ展Ⅱ「戦時救護一日赤看護婦たちの軌跡」が企画展示室で2007年7月21日～9月9日の会期により開催されました。戦時において病院船や内外地の病院で多くの看護婦が献身的な救護活動を行いました。このテーマ展では、そうした看護婦の内、日赤看護婦たちの活動を紹介していました。図録が刊行されました。

テーマ展Ⅲ「戦時埼玉の食卓」が企画展示室で2007年10月20日～12月26日の会期により開催されました。展示では、農業県だった埼玉県を中心に戦前から終戦直後にかけての食糧事情を検討し、埼玉の食生活についてその実態を紹介しています。展示場での「はじめに」の最後の部分で、「戦時下という悲惨な食糧事情の中を生き抜いた郷土埼玉の人々の食生活を振り返るこの展示が戦争のもたらした悲惨さと平和の大切さを考える一助となれば幸いです。」と書いています。展示構成は、1. 昭和初期の食卓(都市の食事、農業不況、農家の食事、栄養食配給所など)、2. 国家総動員そして食糧統制へ(節米、配給、菓子屋の休業など)、3. 戦局の悪化と食糧不足(食糧難、配給のひろがり、家庭菜園、ウサギ飼育奨励、食糧増産学徒勤労動員、郷土食の奨励)、4. 戦争の終わり(いっそうの食糧難、供出、買い出し)です。関連事業として、「戦時中のおやつを食べてみよう」が12月1日に講堂で開かれ、当時の雑誌に紹介されたレシピで作ったおやつの試食会がありました。展示リスト付きリーフレットを刊行しています。

ギャラリー展1「疎開児童の絵」が2007年9月15日～10月28日の会期で開かれました。会期終了後も、引き続き展示していました。

第1回戦争体験者との交流会が講堂で2007年8月15日に開かれ、木村美喜さんが「私の青春第301救護班ー追想のフィリピン」と題して話しました。戦争体験者との交流会は戦争体験者との交流をとおして、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えるものです。

第2回戦争体験者との交流会が講堂で2007年11月10日に開かれ、三浦嘉子さんが「満州からの引揚体験」と題して話しました。

### ○蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

夏の企画展「第18回平和祈念展 15年戦争の記憶 戦中・戦後の暮らし」が2007年8月1日～31日の会期で開催されました。悲劇を繰り返さないために、戦争という事実と記憶を次世代に伝えるため

に開かれたものです。出征、総動員、空襲、代用品、日本国憲法などについて展示していました。トピック展示「旅も戦争一色」では、駅弁の包み紙やバス・電車の乗車券を展示していましたが、その主題は、国民精神総動員、紀元 2600 年、三国同盟、オリクピック、漢口陥落、ヒッラーユンゲルトなどが取り上げられていました。解説のリーフレットを発行しています。

#### ○ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館：埼玉

第 22 回特別展「東京第 1 陸軍造兵廠」が 2007 年 9 月 29 日～11 月 25 日の会期で開催されました。上福岡にあった陸軍造兵廠川越製造所について、資料館は 1983 年から聞き取り調査、実物資料の収集などを進め、調査報告書を刊行し、ミニ企画展などを開催してきました。今回の特別展はこれら陸軍造兵廠川越製造所の調査を集大成するもので、実物資料 300 点や写真資料を展示しました。あわせて、東京の十条、滝野川、尾久などにあった東京第 1 陸軍造兵廠の系列の施設についての資料も展示していました。図録も刊行しています。

記念講演会が 10 月 14 日に開かれ、市文化財保護審議会委員の大柴英雄さんが、「東京第 1 陸軍造兵廠の実態に迫る」と題して話しました。また、歴史学習講座として、10 月 21 日に市郷土文化研究会会長の内田喜代治さんが「63 年前の造兵廠川越製造所体験を語る」を、10 月 28 日には『風船爆弾』の著者、吉野興一さんが「太平洋を渡った風船爆弾」を、11 月 4 日には滝野川工場の学徒だった藤代喜代子さんと川越製造所の学徒だった細井栄五郎さんが「東京と埼玉の学徒動員を語る」を、11 月 18 日には資料館館長の高本文夫さんが「造兵廠大井倉庫と川越製造所長神田大佐」を、それぞれ話しました。

#### ○成田羊羹資料館：千葉・成田市

なごみの米屋が建てた成田羊羹資料館は、第 7 回企画展「戦地慰問と軍事郵便物語」を 2006 年 10 月～2007 年 4 月 30 日の会期で開催しました。米屋羊羹の創業者、諸岡長蔵は 1935 年ごろから地元出身の兵士たちに、米屋羊羹や成田山のお守りを慰問品として送りました。兵士たちから来たお礼状が多数残されています。企画展では、慰問品、慰問趣意文、慰問用羊羹のポスター、お礼状などが展示されました。お礼状には戦場の様子が読み取れるものもありました。国立歴史民俗博物館の特別企画「佐倉連隊にみる戦争の時代」の解説パネルも展示していました。

#### ○東京大空襲・戦災資料センター：東京・江東区

「東京大空襲を語り継ぐつどいー東京大空襲・戦災資料センター開館 5 周年」が亀戸駅前のカメラアホールで、2007 年 3 月 10 日に開催され、井上ひさしさんの講演「日本の空襲」などがありました。当日の講演や報告を収録したブックレットが刊行されています。

2007 年度第 1 回特別展「東京大空襲の生き証人 鈴木賢士写真展」が 2 階の会議室で 2007 年 7 月 25 日～8 月 20 日の会期により開催されました。

#### ○女たちの戦争と平和資料館：東京・新宿区

第 4 回特別展「東ティモール・戦争を生きぬいた女たちー日本軍とインドネシア支配の下で」展 が、2006 年 12 月 17 日～2007 年 5 月 27 日の会期で開催されました。図録を刊行しています。

中学生のための「慰安婦」展が、2007 年 6 月 2 日～2008 年 5 月 25 日の会期で開催されています。1991 年、韓国の金学順さんが初めて、「私は日本軍の『慰安婦』にされた」と訴え出ました。日本の中学生は 1997 年度の教科書からこの問題を勉強するようになりましたが、今ではほとんどの歴史教科

書から「慰安婦」が消えてしまいました。でもアジアの国々には「慰安婦」にされた女性がたくさん生きていて、日本政府が事実を認めず謝罪もしないことに怒っています。ところが日本政府も、大人たちやマスコミの中にも、女性たちの声を否定する人たちがいます。どちらが正しいのでしょうか。この特別展は「本当のことが知りたい」と思っている中学生から戦争体験者の世代までの、すべての人のための「慰安婦」展です。主な展示内容は次の通りです。「日本軍「慰安婦」制度とは？」は、「誰が、どんな目的で慰安所を作ったの？」「誰が管理・経営をしていたの？」「元日本兵は、どんな証言をしているの？」などの疑問に答えるものです。「「慰安婦」を強いられた女性たちの証言」では、女性たちはどこからどのようにして、どこに連れて行かれたのか、慰安所での生活は？など、アジア各地の被害女性のなまなましい体験を展示しています。「教科書攻撃とバックラッシュ」は、中学歴史教科書から消えた「慰安婦」記述。教科書記述はどう変わったのか、その足跡と背景を辿るものです。「慰安所マップ」は、軍関係資料や公文書、書籍、「慰安婦」被害女性や元日本兵の証言等で確認された慰安所設置地域の最新版です。

#### ○すみだ郷土文化資料館：東京

企画展「東京空襲を描く人々―空襲体験者の記憶と表現」が3階の企画展示室で2007年2月10日～4月15日の会期で開催されました。これは、東京空襲体験者が描いた絵画について、「完成作品」とともに、「デッサン」や「下絵」などを展示するものです。「デッサン」「下絵」には記憶から呼び起こされた空襲体験の印象が直截的に表現されています。また「デッサン」「下絵」と「完成作品」を比較し、体験者の「記憶」が第三者への伝達を目的とした「表現」になるまでの、体験者の「心の軌跡」を推察することもねらいとしています。

#### ○豊島区立郷土資料館：東京

収蔵資料展「戦争を考える夏 2007」が2007年7月20日～10月14日の会期で開催されました。構成は、〈民衆動員〉のすがた、疎開地と家族をむすぶ150通の手紙、戦時下の暮らしと隣組、空襲下の豊島区などです。

研究紀要『生活と文化』第16号が、2007年3月1日に刊行され、青木哲夫さんの「無差別空襲開始後の人員疎開の状況と問題点」、伊藤暢直さんの「隣組記録に見る豊島区内隣組の活動状況」などが掲載されています。

#### ○昭和のくらし博物館：東京・大田区

特別展「小泉家に残る戦争」展が博物館の談話室で2007年8月1日～9月2日の会期で、開催されました。戦争の傷跡はこんなにも長く、大きく残ることを忘れないように、「戦争はいけない」と言いつづけるために開館以来毎年8月に「小泉家に残る戦争展」を開催しています。絵日記・千人針・代用品・寄せ書き・もんぺなど、家庭に残る戦争の記憶を展示していました。

#### ○熊谷守一美術館：東京・豊島区

「4月13日の東京大空襲 詩と絵展」が3階のギャラリー桤で、2007年4月6日～15日の会期により開催されました。これは、画家丸野豊の研究者で全国で丸野豊や空襲の展示会を開催している調海明さんと熊谷守一美術館館主の熊谷榎さんの企画によるもので、丸野豊が描いた巣鴨中学付近の焼け跡のスケッチ、吉井忠が描いた池袋付近の焼け跡のスケッチや油絵、熊谷榎さんの空襲の散文詩、

豊島区内の国民学校が受けた戦災の調査結果などが展示されました。

#### ○町田市立自由民権資料館:東京

2007 年度第 1 回企画展「戦線で、兵士は見た―中国東北部の風景と人びと」が企画展示室で、2007 年 7 月 28 日～9 月 9 日の会期により開催されました。これは 1988 年 8 月、町田市に住んでいた市川仁三郎さん（故人）より、寄贈された戦争関係の資料群の展示です。市川氏さんは、「満州事変」から日中戦争期にかけて、3 度にわたり応召し、中国東北部における鉄道警備などの任務につきました。その折に、戦地で集めた多くの写真や絵はがきを持ち帰りました。寄贈された資料群は、主にこの時のものですが、その後さらに市川さんが収集を重ねた資料や、自身の戦争体験の記録ノートなどが加えられています。写真には、「満州国」で鉄道警備にあたる日本兵の姿、沿線の街や農村の暮らしぶり、さらに日本による「満州国」建国を認めず、それに抗う中国の人びとの表情などが映し出されています。また、兵士たちのいる戦地と銃後とをつなぐ役割をもった絵葉書は、兵士が任務についての外国の街の風景や現地の暮らしを銃後に伝えるための図柄と、兵士を慰問することを目的とした図柄に大別できます。市川さんは 1960 年代から日中友好運動に携わりますが、戦争体験を数冊の記録ノートにまとめ、展示会を開催したりしたのは 1980 年代のことです。戦争体験を記録したのは、侵略戦争を反省し、戦争を再び起こさないという思いを、後の世代に伝えようとしたからです。これ以外に、市内の青年団に宛てられた軍事郵便も展示しています。

関連して、記念講演会が 8 月 25 日に開催され、国立歴史民俗博物館研究部助教の一ノ瀬俊也さんが「軍事郵便にみる戦死の諸相」と題して講演しました。

#### ○八王子市郷土資料館:東京

特別展「空襲に備えた日々―戦時下の八王子」2007 年 7 月 31 日～9 月 9 日の会期で開催されました。戦時下、空襲に備えての灯火管制やバケツリレーなどの防空訓練、防空壕作りなどが人びとの生活の中に深く浸透していきます。館蔵資料から、当時の生活を振り返るものです。

#### ○福生市郷土資料室：東京

特別展示「近代戦争のあゆみと戦時下の福生―平和のための戦争資料展―」が 2007 年 8 月 4 日～10 月 8 日の会期で開催されました。福生近代の歴史は、戦争の歴史と密接な関わりがあり、日清戦争から太平洋戦争までの約 50 年間は、まさに戦争の歴史でした。戦後 60 年以上がたった現在、これらの記憶は薄れつつありますが、今回の特別展示は、郷土資料室が収集してきた福生に関わる近代戦争の資料を一堂に展示し、近代戦争の歴史を振り返るものでした。戦時中の子供たちの遊び道具や学校での学習の様子、そして戦時下での市民生活を伝えるさまざまな資料から近代戦争と福生の歴史を見つめなおし、もう一度現在の尊い平和について再認識してもらうという趣旨で開かれたものです。図録を刊行しています。

記念講演会が 9 月 8 日に福生市立図書館 2 階学習室で開かれ、山辺昌彦が「東京・多摩の戦災を考える」と題して話しました。

#### ○東村山ふるさと歴史館：東京

企画展「あの日々の記憶―東村山の空襲と学童疎開―」が 2007 年 4 月 28 日～6 月 24 日の会期で、開催されました。アジア・太平洋戦争終結から 60 年以上が過ぎ、戦争の記憶も風化しつつあるなかで、

展示を通して、戦争という時代の様相を少しでも皆様に体感してもらう趣旨で、この企画展は開かれました。展示は戦時中の東村山を、空襲と学童疎開という2つのキーワードをもとにして構成したものです。戦時中、東村山の周辺地域には軍事施設や軍需工場があったため、市域もB29や艦載機による空襲の被害に遭いました。展示では東村山の空襲を体験者の当時の記憶や、公文書等の記録、米軍の公的記録などにより検証しています。学童疎開については、都内区部より東京女子高等師範附属国民学校(現・お茶の水女子大学附属小学校)と赤坂国民学校(現・港区立赤坂小学校)が東村山に来ていました。展示では疎開児童の日記や絵日記、体験談をもとに学童疎開の日常を再現し、また、公文書や当時の町長日記により、学童疎開の経過をたどっています。展示図録を刊行しています。

#### ○東大和市立郷土資料館：東京

ロビー展「多摩の戦跡写真パネル展」が1階エントランスロビーで、2007年8月3日～31日の会期で開催されました。東大和は1945年2月と4月に大きな爆撃を受けました。市は攻撃目標だった軍需工場の建物を残る爆撃の痕跡もそのままにして、戦争を伝える文化財として保存してきました。展示会は多摩に残る爆撃による被害や軍事施設などの戦争傷跡を写真パネルで紹介するもので、身近にあった戦争を振り返り、平和について考える趣旨で開かれたものです。

#### ○明治大学史資料センター：東京・千代田区

『明治大学史資料センター事務室報告 第28集 大学史活動』が2007年3月31日付で刊行されました。第1回明治大学大学史資料センター企画展「明大生と学徒兵」の特集で、企画展の記録として、開催事情、図録、展示パンフレット、展示見学の基礎知識、ポスター、展示資料のうちの「慰問演芸隊」関係資料の翻刻などが収録されています。また、京都大学大学文書館の西山伸さんら、他大学の大学史関係者で「戦争と大学」に関係する展示を担当された方たちの「明大生と学徒兵」の展示評も掲載されています。

#### ○神奈川県立地球市民かながわプラザ：横浜市

「漫画家・作家たちの絵手紙ー私の八月十五日展」が3階企画展示室で2007年6月23日～7月29日の会期で開催されました。

#### ○川崎市平和館：神奈川

企画展「戦争体験を話す・聞くー終戦直後の混乱期」が2007年2月24日～3月4日の会期で開催されました。

企画展「川崎大空襲パネル展」が2007年3月24日～5月6日の会期で開催され、川崎大空襲の被害記録写真が展示され、「戦争体験を聞く、語る」「おれたちのビー玉」のビデオが上映されました。

#### ○山梨平和ミュージアム：甲府市

開館記念企画展「甲府空襲の実相」が、2007年5月24日から開催されました。

企画展「甲府連隊の軌跡」が、2007年11月10日から開催されました。

#### ○岐阜市平和資料室

企画展「学校もたいへんだったー戦火の中学生日記」ー子どもたちに伝える平和のための資料展ー

が、2007年7月22日～8月5日の会期で開催されました。展示は、1. 戦時中の学校はきびしかった、2. 戦火が学校にもやってきた、3. 戦後、少年たちのとまどいと苦しみ、の3部構成からなっています。それぞれの学校生活を、少年たちの心の動きを追いながら、手作りのマンガパネル約30枚と、当時の資料約70点で再現していました。戦時中については、4人の生徒の日記を中心資料にして、「軍事教練」「勤労働員」「学徒出陣」など、少年たちは勉強をやめて、大人と同じように働き、また兵士となって戦場に向かった様子を展示していました。特別展に協賛して、半田空襲と戦争を記録する会の佐藤明夫さんの講演会「少年・少女たちの戦争～勤労働員～」が2007年7月27日にハートフルスクエアGの2階中研修室で開かれました。

#### ○柳津歴史民俗資料室:岐阜市

展覧会「戦中の暮らしと人びと」が2007年7月3日～8月26日の会期で開催されました。1931年の満州事変に始まる戦時下には、暮らしがさまざまに規制されました。町内会の下部に、10世帯ほどの戸数を1単位として整えられた隣組もそのひとつです。隣組は、空襲に備えた防空訓練や不足しがちな食料・衣類などの配給、金属回収などに取り組み、戦時体制の末端組織としての役割を担いました。今回の展示では、この隣組を通して戦中の人びとのくらしを紹介しています。

#### ○静岡平和資料センター

企画展「風船爆弾と静岡」が2006年10月20日～2007年2月18日の会期で開催されました。静岡でも隣組の主婦や女学生などが風船爆弾の材料の生産に動員されたことも展示しました。

企画展「子どもたちに伝えたい静岡の戦争Ⅱ－三菱工場への爆撃」が2007年3月2日～9月23日の会期で開催されました。展示の構成は、静岡の戦争と郷土の部隊、戦時下の暮らし－銃後も戦場、戦争の果てに静岡に空襲が、静岡市街の空襲に先立つ三菱工場への爆撃などです。

報告書『風船爆弾と静岡』が2007年2月20日に刊行されました。これは1994年から続けられた調査をまとめたものです。

#### ○戦争と平和の資料館 ピースあいち:名古屋市

この2年間に寄贈された戦争資料の特別展、第1回寄贈資料展「軍隊生活」が2007年11月14日～12月1日の会期で、第2回寄贈資料展「国民生活・学校生活」が2007年12月2日～21日で、それぞれ3階で開催されました。

#### ○桜ヶ丘ミュージアム:愛知・豊川市

「豊川海軍工廠展」が2007年7月21日から9月2日の会期で開催されました。これは1939年に建設され「東洋一の兵器工場」と謳われた豊川海軍工廠について知り、私たちの街にもあった戦争について考えるために、毎年夏の時期に「豊川海軍工廠展」を実施しているものです。また、戦時資料シリーズ展の5回目として「兵役と人々」をテーマに同時開催しています。

#### ○三重県立斎宮歴史博物館:明和町

企画展「地域に残る戦争展」が特別展示室で2007年8月1日～31日の会期により開催されました。太平洋戦争下、斎宮歴史博物館のある明和町には、馬之上に陸軍通信第128部隊が置かれ、本郷には射撃訓練場がありました。この企画展は、地元明和町に残されている資料を中心に、日清・日露戦争、

そして日中戦争から太平洋戦争までの資料や、当時の生活を伝える資料を展示していました。出土品を除いてあと全部が、館蔵品ではなく、個人などから借用した資料です。身近に残る戦争のあとに触れ、平和の大切さを感じてもらふ趣旨で開かれたものです。三重県立の博物館としても初めて戦争展示で、博物館の立地している地域に密着した展示を重視してきて、開催することになったものです。展示構成は序章 防空と空襲、1. 好景気と観光、2. 大陸へ、都市へ、3. 15年戦争へ、4. 母と子で、他に陸軍航空通信隊関係資料や戦争遺跡の写真も展示しています。このように今回は総合的な展示でした。

### ○桑名市博物館：三重

学習支援展示「戦時下の暮らし」が1階の企画展示室で2007年6月27日～9月9日の会期により開催されました。開催趣旨は、市内に戦争の爪痕を残す場所がなく、展示会を平和の尊さを学ぶ場にするためです。軍装品、焼夷弾、罹災証明書、債券、国債、記章、感謝状、衣料切符、ポスター、写真週報などを展示していました。出品リスト付の解説パンフレットを作成しています。学習支援展示は2004年度から開催していますが、2005、2006年度は戦争の時期の資料も展示しましたが、戦争をテーマにしたのは今年が初めてです。

### ○四日市市立博物館：三重

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が2007年6月16日～9月2日の会期で開催されました。これは平和学習の支援を目的に、四日市が空襲に遭ったことや戦時中の暮らしのようすを実物資料や写真パネル・模型などで紹介するものです。

### ○浅井歴史民俗資料館：滋賀・長浜市

企画展「第5回終戦記念展 村にきた赤紙ー今明かされる兵事係の記録」が郷土学習館1階展示室で2007年7月25日～9月2日の会期により開催されました。今年は旧大郷村村役場の兵事係だった西邑仁平さんが、焼却命令に抗して密かに保管してきた徴兵や動員関係などの兵事資料を紹介するものです。

### ○近江八幡市立資料館：滋賀

テーマ展 第2回「平和への祈り」が旧伴家住宅で、2007年7月7日～8月19日の会期により開催されました。昨年開かれた第1回に続くもので、軍、青年団、学校教育、学童疎開関係資料や代用品などを展示しています。

### ○栗東歴史民族博物館：滋賀

テーマ展 「平和のいしずえ 2007」が第2展示室で、2007年7月28日～8月19日の会期で開催されました。「平和のいしずえ」は、栗東の人びとが経験した戦争や戦時下の生活をたどり、戦争と平和について考えるものです。国民の総力戦となったアジア・太平洋戦争下では、女性や子どもたちの日常のくらしまでもが、戦争を遂行させる歯車のひとつとなっていました。2007年度の「平和のいしずえ」展では、そうした銃後のくらしを、市民から博物館へ提供された資料を通して紹介しています。今年は図録を刊行しています。

関連して、「戦争遺跡見学会ー陸軍大正飛行場と掩体壕」が、8月10日に開かれました。大阪府八尾市

におかれた陸軍大正飛行場に関連する戦争遺跡を、現地で調査活動をおこなっている大西進さんの案内のもとで見学しました。

#### ○近江日野商人館：滋賀

2007年度〈特別企画〉第20回太平洋戦争展が2007年8月1日～30日の会期により開催されました。2007年4月から館長が替わり、今年は、絵や人形などによる再現展示はやめ、原資料の展示に絞っています。物資不足で変化した教科書や、学用品・配給品をはじめ、空襲に備えた防空訓練・灯火管制・防空壕への避難など、当時の様子を物や写真で紹介し、戦争が子どもたちまで大きな犠牲を強いたことを伝えています。特に、疎開学童のお礼の作文集「なつかしき東桜谷村の皆々様へ」、疎開受入校の学校日誌・東桜谷国民学校の校中日誌にみる疎開指導の記録、「町代日記」の1940年の記録に見る戦時体制の強化についても展示しています。また、青い目の人形や、警報告知板、警報発令伝達書、警報受領書なども展示しています。

#### ○立命館大学国際平和ミュージアム：京都市

特別展「ニューカレドニアの日系人」展が2007年5月10日～6月30日の会期により、1階の中野記念ホールで開催されました。

ミニ企画展「知らなかった京都の戦争 京都への原爆投下計画ーそれはなぜ避けられたか」が2007年1月13日～2月12日の会期により、ミニ企画展「伊藤家からのメツセージ戦争の20世紀を見つめた遺品」が2007年3月9日～4月26日の会期により、ミニ企画展「げんばくって何？ーヒロシマ・ナガサキ・キョウト」が2007年7月26日～8月31日の会期により、いずれも2階常設展示場の中のミニ企画展示室で開催されました。

特別展「飯塚国雄絵画展」が1階中野記念ホールで、11月15日～12月15日の会期により開催されました。飯塚国雄は、ニューヨークを拠点に活躍する画家です。1971年、父と再会し、父親が被爆者であることを初めて知らされます。それをきっかけとして「炎・ナガサキ」を制作しました。以降、飯塚は、内戦、虐殺、貧困、飢餓、難民をテーマにした作品を作り続けています。この絵画展は、戦争の記憶を風化させることなく常によみがえらせつつ、鎮魂と和解、そして共存を願って開催され、群像画からスケッチ画まで、約25点が展示されました。記念シンポジウムが、飯塚国雄さん、歌手の横井久美子、安斎育郎さんの報告により、11月17日に1階ロビーで開催され、横井久美子さんによるミニコンサートもおこなわれました。

ミニ企画展「ニューギニア戦線 玉砕の島写真展」が2007年10月13日～21日の会期により、1階の中野記念ホールで開催されました。これは、遺族ら8人が参加した民間の慰霊団が2007年7月に、1万人以上の旧日本兵が戦死したニューギニア島北西のビアク島のマンドウ付近で14体の死体を確認した時に撮影した、折り重なった頭骨や鉄カブトなどの遺留品、日本軍が立てこもり凄惨な戦闘があった西洞窟などの写真35枚を展示したものです。

#### ○同志社大学 Neesima Room:京都市

第31回企画展「同志社と戦争 1930-1945」展が同志社大学今出川キャンパス・ハリス理化学館2階で、2007年4月2日～8月31日の会期で開催されました。第2次世界大戦期にキリスト教主義学校の同志社が直面した受難と戦争協力を明らかにし、若い世代に学業もままならない時代があったことを知り、戦争とは何かを改めて考えてもらうために開いたものです。学徒出陣した学生の関係資料も展示してい

ます。展示品目録を刊行しています。

関連して、公開講演会が 2007 年 6 月 27 日に開かれ、京都大学大学院教育学研究科准教授の駒込武さんが「戦時下の同志社 ― 帝国日本の歴史の中で考える」と題して講演しました。

#### ○ 京都大学大学文書館:京都市

『京都大学大学文書館研究紀要』第 5 号が、2007 年 1 月 31 日に刊行され、西山伸さんが記録「企画展「京都大学における「学徒出陣」の開催」を書いています。

#### ○ 城陽市歴史民俗資料館:京都

市制施行 35 周年記念・常設展示室リニューアル開館記念 2007 年度第 1 回拡大特別展「十五年戦争と城陽」が、2007 年 7 月 7 日～9 月 9 日の会期で開催されました。今から 60 年ほど前、日本は戦争をしていました。城陽でも、戦争のために死んでしまったり、大切な人を亡くしたり、苦しい生活を送った人たちがいました。戦争があったとき、この城陽で人びとが何を思い、どう暮らしていたのか、この展示によって少しでも理解を深め、戦争と平和について考えることができればと願って開かれたものです。図録が刊行されています。証言も展示していますが、これは城陽市発行の『永遠の希い―私の戦争体験』と城陽市遺族会・城陽市傷痍軍人会発行の『戦争の顔―戦争の悲惨な体験を語り継ぐために』から取ったものです。

#### ○ 亀岡市文化資料館:京都

第 43 回企画展「戦争平和展―戦争遺跡と亀岡」が 2007 年 7 月 28 日～9 月 2 日の会期で開催されました。亀岡における戦争の遺跡を調査し、遺物を展示することで、2 度と悲惨な戦争をおこさないようにとの願いをこめて催したものです。主な展示品は、千人針、国民服、慰問袋、軍用銃、軍事郵便、学童疎開の写真や日記、大谷鉾山の戦前の写真や戦後の記録、縁故疎開した日本画家堂本印象の保津風景画、彫金家矢島甲子太郎の疎開記録、平和都市宣言の簿冊（旭町）、平和の折鶴などです。大谷鉾山は稗田野町鹿谷にかつてあったタングステン鉾山で、戦時中には軍器製造必需物資として国内有数のタングステン鉾山でした。戦前の写真や地図、戦後の操業の様子がわかる資料、かつて走っていたトロッコの写真などを展示しています。日本画家堂本印象は戦争中に保津町に疎開していました。疎開中に描かれた保津の風景画など 3 点が確認されています。堂本印象美術館や地元に残されていた貴重な絵画を展示します。図録が刊行される予定です。

#### ○ 向日市文化資料館：京都

'07 夏の文化資料館ラウンジ展示「くらしのなかの戦争 出征兵士と子どもたち」が 2007 年 8 月 11 日～9 月 30 日の会期で開催されました。これは、毎夏、市民の方から寄贈された戦争に関する資料を展示し、身近な地域の資料から、戦争と平和について考えてもらうものです。今年の主な展示品は、皇軍慰問絵葉書、兵士からの手紙、「戦場に送る子どもの文」代表作品賞状、乙訓郡全学童文学おとくに、などです。

#### ○ 大山崎町歴史資料館：京都

小企画展「第 9 回平和のいしずえ」が 2007 年 8 月 7 日～26 日の会期で開催されました。これは戦争前後の資料を展示して、平和の尊さを考えるものです。今年は戦前、戦中の近畿地方の鉄道の絵葉

書などを展示しました。

### ○大阪国際平和センター（ピースおおさか）

特別展「戦争体験画展－兵士が見た太平洋戦争 少年が見た大阪大空襲」が1階特別展示室で2007年1月13日～4月10日の会期で開催されました。大田健一さんの南方戦の絵画とスケッチ、水速信孝さんの大阪大空襲と学童疎開の体験画、平岡潤さんの絵本『夜が明けて わたしと大阪大空襲』の原画などが展示されました。

特別展「戦時下の大阪 ないないづくしの戦争展」が1階特別展示室で2007年7月5日～9月16日の会期で開催されました。1937年、中国の盧溝橋で日本軍と中国国民党軍が衝突し、これを機に日中両国は戦争状態に突入しました。1941年12月8日、日本軍はマレー半島とハワイの真珠湾を攻撃し、アメリカやイギリスをはじめとする連合国との全面的な戦争に発展していきました。これにより、国内は戦争一色に染まり、「欲しがりません、勝つまでは」などの標語を合言葉に物資の生産や供給も軍需品が優先され、民間のものは後まわしにされました。戦局が悪くなるにしたがって食糧や衣服などの生活必需品も極端に不足し、英語の使用禁止やさまざまな行事の中止など言論や活動の自由も制限されました。まさに「ないないづくし」の時代でした。戦争は、人びとからさまざまなものを奪い、人びとの生活を一変させます。今回の特別展では、ピースおおさかの所蔵資料を中心に約200点を展示し、戦争によりなくなっていった「もの」や「こと」を通して、戦争とくらしについて考える機会とするものです。展示概要は、＜ものがない＞ 米穀通帳 衣料切符 配給の回覧板 米袋で作った手さげ袋 布でできた靴など、＜金属がない＞ 陶製キセルなど金属製品の代用品など、＜おしゃれができない＞ 国民服もんぺ など、＜灯りがない＞ 防空電球 暗幕など、＜家がない＞ 罹災証明書 空襲後の写真などです。

「3.13 大阪大空襲 平和祈念事業」として、講演会「孫たちへの証言－戦争体験をどう伝え、どう受け継ぐか」が1階講堂で2007年3月10日に開かれ、「孫たちへの証言」編集者の福山琢磨さんが講演をしました。

「8.15 終戦の日 平和祈念事業」として、ちばてつや講演会「私のマンガと戦争体験－『満州』からの引揚げと平和への想い」が1階の講堂で2007年8月12日に開かれました。

フィールドワーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの昔を訪ねて－『西六社』境界を歩く」が2007年3月18日に開かれ、此花区の空襲被災地域を歩きました。

ピースおおさか「ウイークエンド・シネマ」－戦争と平和についての映画会が、1階の講堂で開催され、2007年8月18日には、「はだしのゲン」が、19日には「はだしのゲン」PART2とPART3が、25日と26日には「火垂るの墓」が、それぞれ上映されました。

『戦争と平和：大阪国際平和研究所紀要』'07 Vol.16 が、2007年3月31日に刊行されました。横山篤夫さんの「大阪の忠霊塔建設」、福林徹さんの「第2次大戦時の大阪俘虜収容所について」、小山仁示さんの「1.19 明石大空襲をめぐる」、佐々木和子さんの「B29部隊によるリーフレット（伝単）作戦」などが掲載されています。

### ○堺市立平和と人権資料館：大阪

企画展「6000人の命を救ったビザ－外交官杉原千畝の決断」が2007年1月6日～3月30日の会期で、企画展「紙しばいに見る日本－戦中・戦後のくらしと世相」が2007年4月1日～6月29日の会期で、それぞれ開催されました。

企画展「描かれた戦争体験」が7月1日～9月29日の会期で開催されました。「当時の記憶を残したい」

「伝えたい」という思いを込め、市民の方が描いた空襲体験画 16 点を中心に、戦時下の模型・資料も併せて展示しています。一人ひとりが「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」について考える機会となることを開催趣旨としています。

特別展「絵画が語る平和への願い～大田健一展」が教育文化センター（ソフィア堺）内図書館棟 1 階小ギャラリーで 2007 年 11 月 1 日～11 日の会期により開催されました。大田健一さんは、1940 年から中国や東南アジアに従軍し、最前線の戦争の悲惨さも体験しました。厳しい戦場にあっても絵画への望みから戦場のさまざまな光景をスケッチしました。戦後、これらスケッチをもとに「当時の記憶を残したい」「伝えたい」という思いから戦争体験絵画を描きましたが、これら絵画からは「平和への願い」「いのちの尊さ」が強く伝わってきます。大阪国際平和センターの協力を得て、大田健一さんが描いた戦争最前線の 19 点の絵画を通して、一人ひとりが「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」「いのちの大切さ」について考える機会とするために開くものです。

#### ○吹田市平和祈念資料室：大阪

企画展「子どもたちの『戦争』～絵日記でつづる学童疎開～絵手紙が伝える戦争」が 2007 年 8 月 21 日～9 月 2 日の会期で開催されました。これは平和祈念プロジェクト 21 と大阪国際平和センターの協力により、戦時中の子どもたちによって書かれた疎開中の絵日記作品と学童疎開をテーマにした写真パネルを展示したものです。

#### ○日本民家集落博物館：大阪・豊中市

日本民家集落博物館内のカルチュアはっとりで、企画展示「禁野火薬庫の調査」が 2007 年 3 月 8 日～21 日の会期により開催されました。これは、枚方市にあった陸軍の禁野火薬庫の大阪府文化財センターによる発掘調査の成果報告で、銃砲弾、煉瓦、金具、軌道の枕木などの出土品、火薬庫当時の図面や写真、発掘の様子写真などが展示されました。「禁野火薬庫の調査」の解説書、「カルチュアはっとり」10 号が刊行されています。2007 年 3 月 10 日に「調査成果報告会」が開かれました。

#### ○姫路市平和資料館：兵庫

収蔵品展「戦時下を語る資料たち」が 2 階展示室で 2007 年 1 月 16 日～3 月 25 日の会期により開催されました。これは、当時の国民生活に思いをはせながら、そこに多くの尊い犠牲があったことと、現代日本の平和の尊さを考える機会になることを願って開催されたもので、「戦地へ」「庶民の暮らし」「学校生活」「空襲」などのテーマに分けて展示しました。2 月 11 日に筑木義雄さんが「姫路空襲体験談」を話しました。

春季企画展「子どもたちが記録した『日常』－戦時下の小生日記から」が 2007 年 4 月 6 日～7 月 1 日の会期で開催されました。これは、日中戦争、真珠湾攻撃を経て、日米の戦いが激化する 1940 年から 1944 年の時代に、当時の東京の小生が綴った日記を通して、戦時下の子どもたちがどのような日常生活をおくり、どのように見ていたのかを当時の写真パネルや日記に出てくる当時の現物資料をも使いながら紹介するものです。これら展示を通して、戦争の悲惨さや現代の平和の尊さを考えようというものです。5 月 5 日には、駒田真紀さんによる朗読会がひらかれました。6 月 22 日には、講演会がひらかれ、田路信一さんが「姫路空襲体験談」を話しました。

秋季企画展「『学び』を奪った戦争～学徒勤労動員の日々～」が 2 階展示室で 2007 年 10 月 5 日～12 月 24 日の会期により開催されています。太平洋戦争の拡大とともに不足していった労働力を補うため、

多くの学生、生徒たちが軍需工場等に動員されました。学びの場が事実上、機能を停止していった状況を、勤労働員中に空襲や原爆で亡くなった学徒の遺品を中心に当時の写真や現物資料などで紹介しています。これら展示を通して、「戦争」の愚かさ、悲惨さと現代の「平和」の尊さについて考えるとしています。展示構成は、1. 「学徒勤労働員― 北海道、東京、愛知 ―」では、製鉄所、航空機メーカーなどに動員され、勤務中の事故や工場への空爆で死亡した学徒たちを中心に当時の状況を紹介しています。2. 「学徒勤労働員と大阪大空襲」では、大阪大空襲の犠牲となった動員学徒たちを中心に当時の状況を紹介しています。3. 「学徒勤労働員と広島原爆」では、広島において、建物疎開に動員されていた学徒が多数被爆した状況を紹介しています。4. 「姫路における学徒勤労働員」では、姫路における学徒勤労働員の状況を紹介しています。5. 「学徒勤労働員の証言」では、戦争末期、動員された学徒の日記などを紹介しています。1～3の資料は、若人の広場から立命館大学国際平和ミュージアムに寄贈された資料です。

関連して、11月3日に空襲体験者・黒田権大さんによる講演会が開かれました。

市内の被爆体験者による体験講話が2007年8月19日に開かれました。

#### ○奈良県立情報図書館戦争体験文庫：奈良市

戦争体験文庫企画展示「軍隊と地域 1-戦地・占領地での軍隊 ビラと軍票-」が2006年12月1日～2007年1月30日の会期で、「軍隊と地域 2 村と軍隊-村役場／在郷軍人会-」が2007年2月1日～3月29日の会期で、「軍隊と地域 3 村と軍隊 2 -勤労・増産・金属回収-」が2007年3月31日～6月28日の会期で、「軍隊と地域 4 奈良の戦争遺跡 -奈良聯隊 奈良海軍航空隊ほか-」が2007年6月30日～9月27日の会期で、戦争体験文庫企画展示「戦争と手紙 1 出征」が、2007年9月29日～12月27日の会期で、それぞれ開催されました。

#### ○戦争体験文庫 in 代官山:東京・渋谷区

奈良県代官山iスタジオで、2007年7月25日～8月6日の会期により、奈良県立図書情報館内にある「戦争体験文庫」の一部が展示されました。「戦争体験文庫」でも、戦争の手紙を多数、所蔵・保管しています。それらを手にすると、戦時中に生きたひとりひとりの方の家族や友人への想い、そして、普段忘れてしまいがちな、生きるということの重さがひしひしと伝わってきて、強く心を揺さぶられます。今回そうした手紙の一部を展示し、手にとってもらうことで、戦争が人びとに何をもたらしたのかということを考えてもらうものでした。また会場には、戦時期の手紙を主題とした図書展示をするほか、『硫黄島からの手紙』をより深く知るための硫黄島に関連する図書コーナーも設けられました。明治憲法下では兵役につくことが国民の義務とされていきました。満20歳に達した男性には徴兵検査がおこなわれ、検査の結果、甲・乙・丙・丁・戊種に区分された後、甲種・乙種の者が抽籤で入営しました。現役兵になると、軍隊に入り2年間（海軍は3年間）勤務につきました。しかし、1939年から抽籤は廃止され、翌年には乙種が3つに分けられて、甲種と第一乙種は即入営を意味することになりました。主な展示資料は、（出征）召集令状、出征兵から家族への封書、出征の挨拶状、お守り袋、入営壮行会写真、入営のぼり旗、日の丸、入営後母へ宛てた手紙、（戦地からの手紙）スマトラから子どもへ宛てた父の葉書、満州から子どもへ宛てた父の葉書、フィリピンから家族へ宛てた葉書、鹿児島から母へ宛てた手紙、特攻隊員が祖母へ送った自分の写真と添状、検閲逃れのため切手の下に文章が書いてある葉書、大東亜地図、軍事郵便絵葉書各種、（内地から戦地への手紙）小学生からの慰問葉書、隣組慰問状、少年団、慰問状送付先リスト、家族の写真、皇軍慰問絵葉書、国防婦人会、慰問袋収集の写真、慰問

人形の作り方、慰問帖の作り方、雛人形にそへて、（帰還）帰還の挨拶状、帰還兵への注意、皇室からの下賜品写真、行賞賜金国庫債券、死亡告知書、無言の凱旋掲示、無言の凱旋写真、遺骨・遺留品取扱に関する通知、遺髪・遺爪の封筒、戦死の状況を知らせる手紙、生死をたずねる手紙などです。

### ○広島平和記念資料館

2006 年度第 2 回企画展「林重男写真展」が 東館地下 1 階の展示室（5）で、2007 年 2 月 15 日～7 月 17 日の会期により開催されました。

2007 年度第 1 回企画展「海外からの支援 被爆者への援助と込められた再建への願い」が 東館地下 1 階の展示室で、2007 年 7 月 25 日～10 月 31 日の会期により開催されました。展示構成は、はじめに、海外へ伝えられる惨状、廃虚での救援活動、苦しい生活に耐える、広島に寄せられたさまざまな援助 1 海外へ広がる 被爆体験、広島に寄せられたさまざまな援助 2 届けられる救援物資、広島に寄せられたさまざまな援助 3 海外移民からの援助、広島に寄せられたさまざまな援助 4 精神養子運動、広島に寄せられたさまざまな援助 5 「広島の家」の建設、支援の広がり 1 立ち上がる人びと、支援の広がり 2 被爆した女性たちの治療、支援の広がり 3 広島 憩いの家、支援の軌跡、おわりに です。

### ○国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

企画展「しまってはいけない記憶－助けを求める声を後にして」が地下 1 階情報展示コーナーで、2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日の会期により開催されています。

### ○福山市人権平和資料館：広島

企画展「少年たちの記憶－中国から引揚げてきた漫画家 12 人の体験画集」が 2007 年 4 月 25 日～6 月 24 日の会期により開催され、幼少年期を「満洲」（現中国東北部）で過ごし敗戦によって日本に引揚げてきた辛い体験を、漫画家 12 人が描いた絵を展示しました。

企画展「福山空襲と戦時下の暮らし」が 2007 年 6 月 27 日～8 月 31 日の会期で開催されました。常設展に資料や写真を補充し、社会科教科書と関連させた内容のものです。

### ○高松市市民文化センター・平和記念室：香川

高松空襲被災写真などの展示の機会を増やし、市民に平和意識の啓発を図るため、初めて試みられた写真パネルのみの巡回展「第一回高松空襲写真パネル巡回展」が、高松市生涯学習センター（まなび CAN）1 階のエントランスホールで、2007 年 2 月 20 日～3 月 4 日の会期により開催されました。

平和記念室企画展が高松市市民文化センター 1 階ロビーで 2007 年 8 月 22 日～9 月 2 日の会期で開催されました。市民から寄贈された収蔵品とともに、平和教育や平和学習に役立つ、高松市の空襲を語り継ぐ建物や学校関係パネル 52 点も展示されました。

第 17 回高松市戦争遺品展が高松市役所 1 階市民ホールで 2007 年 7 月 30 日～8 月 3 日の会期により開催され、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え、平和を願う市民の心をつたえるために、市民から最近寄贈された資料や、高松空襲、戦時中の女性に関する資料などが展示されました。

高松戦災・原爆写真展が高松市役所 1 階市民ホールで 2007 年 8 月 6 日～10 日の会期により、高松市平和を願う市民団体協議会事業として、戦争の悲惨さと平和の尊さを再確認するために開催され、原爆の悲惨さを伝える写真、絵画、遺品などが展示されました。

教職員のための平和教育講演会が高松市市民文化センター 3 階第 1 集会室で 2007 年 8 月 28 日に開か

れ、「高松市戦争体験談を語り継ぐ語り部の会」の語り部の中島貞夫さんが「高松市空襲体験談」を、平和記念室担当の元市民文化センター嘱託職員の中島省三さんが「平和教育推進のための教師の役割について」を話し、平和記念室の嘱託職員の河野美智子さんが平和記念室企画展の展示説明をしました。

#### ○福岡市博物館

展覧会（部門別展示）「戦争とわたしたちの暮らし 16」が、2007 年 5 月 29 日～7 月 22 日の会期で、開催されました。6 月 19 日の「福岡大空襲の日」の前後に、館蔵の戦時関係資料を展示するシリーズ。16 回目となる今回は、昭和戦前期から戦時中までの衣生活に関する資料を中心に展示しました。

#### ○長崎原爆資料館

「原爆資料館所蔵絵画展」が企画展示室で 2007 年 5 月 16 日～7 月 12 日の会期により開催されました。前身の国際文化会館当時から寄贈を受けた所蔵絵画の一部を展示しました。

「原爆資料館収蔵資料展」が企画展示室で 2007 年 11 月 22 日～2008 年 1 月 15 日の会期により開催されています。

#### ○薩摩川内市川内歴史資料館：鹿児島

ミニ企画展「終戦記念展」2007 年 8 月 7 日～26 日の会期で開催されました。

#### ○沖縄県平和祈念資料館

第 8 回特別企画展「沖縄戦と戦争遺跡～戦世の真実を伝えるために～」が企画展示室で 2007 年 10 月 10 日～12 月 16 日の会期で開催されています。その後、分館である八重山平和祈念資料館で 2008 年 1 月 16 日～2 月 24 日の会期で開催されます。3 か月以上も「鉄の暴風」が沖縄戦全土を襲った悲惨な地上戦の痕跡は、戦争遺跡として今なおその傷跡をとどめています。失われていく戦争の記憶を伝え、平和を希求する願いから、県内に残された代表的な戦争遺跡を紹介するものです。

特別企画展関連企画「沖縄戦講座」が平和祈念ホールで 2007 年 11 月 4 日に開かれ、沖縄国際大学教授の吉浜忍さんが「沖縄戦と戦争遺跡－南風原陸軍病院壕の保存・公開をとおして－」と題して話しました。

---

## 討論概要

(意見)埼玉の場合は、外務省ホームページの歴史問題 Q&A で政府見解を示しているが、南京大虐殺については多くの非戦闘員の殺害や略奪行為があったことは否定できないと書いてあって、これが大きかった。委員中にがんばった人がいたこともあった。埼玉には、慰安所を管理していた憲兵の証言のビデオもある。

(報告者)既存の展示を守る方は易しいが、あらたな事業展開の方がより困難である。

(意見)広島江田島にある自衛隊の教育参考館がリニューアルし、外装や中の展示内容も変えたはずである。海軍の方が、戦前の価値観がそのまま続いている。戦後一旦閉鎖されたのが、どこでどうなり、いつ再整備されたかは、わからない。海軍の方は太平洋戦争でいい。

(質問)山梨平和ミュージアムは石橋湛山記念館を兼ねたものなのか。「湛山と戦争」「湛山のアジア」という視点はあるのか。

(報告者)アジアとの関係では小国主義についての展示をしている。戦時下については、小日本主義の旗印を下ろさざるをえなかったが抵抗を続けたとしている。満州事変直後には満蒙放棄による平和的解決を要望した、日米戦争必至の中で日本の経済力では対米戦争に耐えないこと婉曲に主張した、小磯国昭内閣成立に対し一見総力戦遂行のための合理的な提案した、ことなどを解説で書いている。戦後の靖国神社廃止論を強調している。

(意見)博物館の指定管理者制度の導入が博物館の展示をどう変容させるか注目している。収益性が重視されるので、企画が安易になり、展示内容に問題が出てくる危険性がある。継続的に見ていく必要がある。学芸員が一人でがんばっているような博物館の良心的な展示内容が、どうなるか心配がある。

(報告者)指定管理者制度で、博物館管理運営を民間の株式会社でもできるようになった。展示業者が管理を取ったところもある。展示業者は展示制作よりも、つくった後のメンテナンスでもうけているので、他の展示業者に取られるといけないので、採算を無視してでも取らなければならない面もある。学芸部門を県や市の直営のままの所もあるし、学芸員を展示業者が雇っている所もあるが、契約期間が切られているので、継続性に問題がある。専門でやっている学芸員の蓄積でやれている面が大きい。人件費は下がるが、書類作りが大変になり、合理化されてはいない。指定管理者制度で管理者が変わり、市の職員の学芸員が博物館から引き上げざるを得なくなった所も出ている。今年、戦争展示を見た範囲ではまだあまり変化はない。今の契約期間が過ぎた後に大きな変化があるのではないかと思う。

(意見)ここ数年、兵士の加害証言が目立っている。NHK がシリーズ証言記録「兵たちの戦争」で支局毎に兵士の証言映像を撮っている中にも加害証言がある。アメリカ人がつくった映画「特攻」にも、生き残りの特攻隊員の証言に、天皇の戦争責任にふれるなど、なまなましい証言が出てくる。戦場体験放映保存の会が活発に活動している。上田哲さんがはじめたもので、会の中尾知代さんが慰霊関係から戦友会をずっと追って取材している。オーラルヒストリーも大物政治家の言葉をそのまま記録するのと、社会史・民衆史の路線とが対立している。

(意見)戦場体験放映保存の会は証言映像を撮り、それをネットで配信している。それに付随して、寄贈資料が集まってくるが、資料館が無いので、どう保存するか困って、場所探しをしている。夏に資料展を開いている。しょうけい館にも依頼にきたが、断った。

(意見吉田裕)市町村合併で名前がわからなくなっている。

(報告者)博物館の運営に、市町村合併の影響が出ている。

(意見)浅井の兵事資料は山本和重さんが調査に行っている。

(報告者)これはいい資料で、はじめて紹介されたものである。

(質問)ピースあいちに完全な民間のものなのか。

(報告者)そうで、愛知県と名古屋市に平和博物館を建てさせる運動をしていたグループがつくったものである。県と市が作成した報告書にそった展示会を開いたら、そこに来た人から、土地と一億円の寄付があった。そこで、自力で建てることになり、新たな募金にも取り組んで、設立したものである。地方自治体の補助はない。これからも募金で維持していく。財団法人ではなく NPO 法人である。

(質問)山梨もそうなのか。

(報告者)山梨は法人化していない。募金もなかなか進まなかったもので、個人が退職金を出すこととして、土地を買って、博物館を建てている。

(質問)大学史で大学と戦争の企画はまだこれからなのか。慶応は早かったのか。

(報告者)慶応は白井厚さんが早くから調査しているが、大学史の展示会としては開催していない。昨年の例では、京都大学は大学文書館が歴史展示室で開いており、東北大学は大学史料館の展示室で開

催しており、明治大学や駒沢大学は大学博物館の中に大学史の展示室があつて、そこで開いている。このように展示施設を持っているところが展示会を開催している。

(意見)明治大学は登戸研究所の資料館をつくることを準備している。

(報告者)これは、今の大学施設があるところの歴史展示で、大学史の展示ではない。慶応大学も連合艦隊の地下壕の博物館をつくろうという動きがある。いずれもまだ、文化財に指定されていないが、文化庁による近代遺跡(軍事)調査の詳細調査報告書の刊行が遅れており、それをまっているところで、それが出ると文化財指定も進むだろう。

(意見)日本大学の生産工学部のキャンパスは習志野の騎兵第14連隊の跡地。大学史の資料室があつて博物館の構想もあるが、キャンパスと戦争遺跡という視点は是非必要だと思う。

(質問)戦後的な展示と言っているが、戦争展示の戦後の流れから言うと、前に戻ったということか。最初は戦争体験した人が展示していたが、最近は体験していない人がやっており、調査も進んでいるが、わかりやすさが求められている。

(質問)加害展示から戦争の悲惨さを伝える展示に後退したという意味か。

(報告者)公立の博物館は60歳で停年になるので、今は若い全く戦争体験が無い人が独自に調べて展示する形になっているので、戦争体験者のやる展示とは違ってきている。趣旨として戦争の悲惨さを伝えることは一貫していた。加害展示も日本人の被害だけでなく、日本人が与えた被害を含めて、悲惨さを伝えることにある。加害展示については90年代半ばまではかなりできていたが、長崎の加害展示への攻撃が起きてからは厳しくなっている。地域の支持基盤がないとできにくくなっており、慎重になっている。

(意見)つくる会的なグループの圧力が弱まっている。ネット上の論争も南京事件あつた派が盛り返してきている。

(意見)たとえば永井和さんが慰安婦問題のブログである論者に実証的な反論を加えたことで、それが参照されてネット上の論争の実証精度が上がったという例もある。

(意見)NHKも脇を固めて、ストレートに表現できないで、たんたんとつくっている。

(質問)「戦争体験文庫 in 代官山」はどういうものか。

(報告者)これは、奈良県立図書情報館の中の戦争体験文庫が、東京にある県の施設で出張展示をしたものである。手紙のコピー資料を、そこで読めるように展示していた。

(意見)県のステーション施設で、文化的な観光アピール企画の一環として開いたものである。図書館の中で戦争体験文庫は大きいスペースを取っているが、その一角で、ケース1つぐらいを使って展示している。本と一緒に集まってくる現物資料を展示し始めて、継続している。

(質問)常設展示なのか。

(報告者)図書館では常設であるが、代官山は常設でなく、多目的の企画を開催する部屋で、期間を限って開いていた。

(意見)若者の街に奈良から出てきて、硫黄島の手紙などを取り上げているのは、おもしろい試みである。何かやろうという時に、これを選んだことは意味がある。

(報告者)しかし、あまりマスコミの話題にはならなかったようである。奈良県立図書情報館は奈良だけでなく、全国から体験記を集めており、それを目玉にしている。

(質問)展示は図書館側のイニシアティブなのか。

(意見)奈良県立図書情報館は全国レベルで情報を発信している。県でも重視している。昭和館でも硫黄島の映画に便乗して小さな企画をやった。

(報告者)昭和館の手塚治虫の展示は空襲に関連づけており、よかった。

(意見)昭和館はさらっと、どんどん戦争展示を始めている。

(意見)女たちの戦争と平和資料館の「中学生のための『慰安婦』展」は、中学生むけの関連イベントがあったのか。教科書に従軍慰安婦が載っていた時期の中学生とはどういう関連があるのか。

(報告者)オープニングイベントで、慰安婦問題の教育実践が話されている。教科書の記述が後退しているので、今の中学生に基礎的事実を伝えるものだが、大人が見てもよくわかるものだった。

(意見)従軍慰安婦は教科書から言葉は消えたが、文章としては実質的内容が残っている。

(質問)福生市が米軍基地に立ち入って調査しているが、申し入れて許可がでればいいのか。

(報告者)市から主体的に申し入れて調査したものもある。基地の中の遺跡のツアーもやっている。9.11以降は一時かなり難しくなったようである。

(質問)町田市立自由民権資料館で展示された兵士の体験を語る資料は80年代という、すごく昔に寄贈されたものだが、このように寄贈されても世に出ていないものは他にもあるのか。加害だけでなく、トラウマとか心の傷などの、兵士の内面が重視されるようになって、企画されるようになったのか。

(報告者)軍事郵便などは所蔵されても展示で紹介されていないものが多い。豊島区立郷土資料館の場合も、80年代に寄贈された鍋木正義さんの軍事郵便を展示し、翻刻して資料集にしている。

(意見)体験者から直接資料をもらうことがどんどん減ってきている。

(意見)公的な寄贈先がないことが大きい。靖国神社も同じものが多すぎて困っている。

体験記を一元的に集める場所が必要と言われているが、受け皿がない。

(報告者)奈良県立図書情報館がそれを目指した。地域の市区町村の博物館に寄贈されるのが一番好ましい。

(意見)NHKの取材でも、作品は残しても、集めた材料や使わなかった映像は残していない。

(意見)作品には証言者の階級や生年などの知りたい基本的データが入っていない。番組でも古いのは残っていないものもある。

(意見)映像資料の史料価値をどう確立するか大きな問題で、史料批判の方法やそれを可能にするアーカイブズのあり方など、検討課題は多い。史料批判がなされないとあまり価値がない。

(意見)世代間の戦争体験の継承が大きな問題となっている。

(まとめ・文責山辺昌彦)

---

## 今後の予定

### 第14回研究会

日 時 2008年2月23日(土) 午後2時～5時

場 所 東京大空襲・戦災資料センター

報告者 大岡聡氏

報告題 『戦災復興の日英比較』(松村高夫氏ら編、2006年11月知泉書館刊)の書評